

『身近な税について思うこと』

関川村立関川中学校 3年

荒木 桜輔 さん

「なんで消費税なんか払わなければいけないんだろう?」「100円もらっても100円のお菓子は買えないじゃないか」「お金持ちの人から税金をもらえばいいじゃないか」そんなふうに私は思っていました。だから、税金にはあまりいいイメージがありませんでした。税金がどんなふうに使われているかわからないときはそう思うのは当然のことだと思います。しかし、税について勉強したことで、税金は私たちの生活に深くかかわっており身近なところでも使われていることを知りました。

最近の出来事です、学校の耳鼻科検診で受診をすすめられて医者に行った時のことです。会計は530円。薬代は0円でした。それまでは医療費については全く興味がなく、いくらかかっているか見たことがありませんでした。診療の明細を見ると全部で8500円くらいの医療費がかかっています。「村の子供医療費助成のおかげで530円で済んだよ。」と母から聞きました。助成されるお金は税金ということです。

私は小さいころ体が弱くて、よく入院したり小学校6年生まで毎日薬を飲んでいました。その時は、毎日薬を飲むのがつらく、いやだな飲みたくないなと思うこともありましたが、根気強く治療をして今は風邪もひかない丈夫な体に

なりました。今考えてみるとものすごく多くの税金のお世話になっていたんだろうと思います。私の住む関川村では高校卒業までこの医療費助成があります。530円が当たり前ではないことを忘れずにお世話になるときは感謝の気持ちをもって使いたいと思います。

また、身近なところでは村のスクールバスと路線バスが無料で乗れることだと思います。私が小学校へ入学するときに村にあった5つの学校が1つに統合されました。私は両親が共働きのため祖父母の家までスクールバスや路線バスに乗って帰りました。路線バスの定期券は全部村が負担してくれていました。その大切な定期券を落としてしまったことがありいくらさがしても出てこなくて、再度定期券をもらいました。当たりまえのように乗っていたけれどその負担は働いて納税した人達によって賄われていたんだと今は感謝の気持ちが生まれています。私の住む関川村も人口減少が進んでいて、今後村はどうなるのかと考えることもあります。人口が減れば働き手も減り税金の収入も減ることになります。多くの人が納得のいく税金の使われ方は何なのか、納得のいく納税を進めてほしいと思います。

私も将来関川村を離れることがあったら、ふるさと納税をしてお世話になった関川村に恩返しをしたいです。そして、納税の義務を果たし社会に貢献できたらいいと思っています。

